

## 平成 26 年度の事業報告書

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 カリタス釜石

### 1 事業の成果

#### ■概況

昨年オープンしたイオンタウン釜石の前には、地元の商店が入居する新しい商業施設「タウンポート大町」がオープンした。釜石では現在あらゆる建設現場に「ひと・もの・かね」が集中しているが、水産加工業やサービス業、飲食業など地元の中小・零細企業は変わらず人材不足と言われている。そのような中、復興公営住宅への移行期を迎え、自治会形成が優先課題となっている。外部との接点となり得る自治会は、住民の孤立を防ぐためにも不可欠である。入居後の自治会設立はなかなか困難であることから、入居前にある程度関係性を築くことの重要性が明らかになっている。

釜石市内の仮設住宅の集約が決定され、現在の 66 団地から 21 団地に統廃合する。集約は順調だが、復興公営住宅に移行した方とまだ仮設住宅にお住まいの方との間に温度差がある。最終的には全員が移行するが、住民間に不安や焦燥感が募っている。また、仮設住宅から復興公営住宅に引っ越す方や、自立再建をされてご自宅に引っ越す方、また仮設住宅の集約が始まったことにより、仮設住宅から仮設住宅へ引っ越しをして復興公営住宅の建設を待つ方など、個々の持つ課題や問題が多様化してきている。そのため、サロン活動において住民同士でも話す相手によっては内容を選ばなければならない状況になっている。

#### ■主な活動内容

被災地復興支援事業

##### 【サロン活動】

サロン活動実績（仮設住宅談話室、集会所等でのサロン活動）

サロン場所(実施主体)	通算(平成26年度)		
	開催回数	受益者数	ボランティア数
ふいりあ(カリタス釜石)	363	4,080	895
仮設住宅(釜石市社協生活ご安心センター)	482	5,344	1,226
仮設住宅(自治会、住民主体)	25	202	61
日向みなし仮設集会所	50	501	128
地域集会所サロン(町内会・地区生活応援センター)	19	225	26
計	939	10,352	2,336
参考:見守り活動(件数)			747

傾聴やお茶、手芸、映画上映会などを仮設住宅の談話室や集会所を利用して週 1 回または月 1 回を 16 カ所で継続的に開催。また、その時のボランティアの特技を生かしたものをサロンの中で実施。

仮設住宅から復興公営住宅に移行するにあたり、仮設住宅にお住まいの方々と引越し先にお住まいの近隣住民を招き、主に顔合わせを目的に「秋祭り」を開催した。仮設住宅の住民からは「他の仮設の人たちにも会えた。場所が変わるとまた違った楽しみがある。こういう場は気持ちが明るくなる」と話され、「秋祭り」などの交流会の必要性は大きい。釜石の方々は集合住宅での生活経験がほとんどないため不安を募らせており、仮設住宅に残りたいと話す方もいる。そのような方の不安を軽減させるためにも入居前の交流会は非常に重要である。さらに、概況にもある通り現在の仮設住宅でのサロンには、復興公営住宅に引っ越す方や、自立再建をされてご自宅に引っ越す方、仮設住宅から仮設住宅への引っ越しを控えている方など様々な方が混在し、住民同士でも話す相手によっては内容を選ばな

ればならない状況になっている。住民からは「お茶っこで話をしっかり聞いてくれてありがたい」との声もあり、今後のサロン活動では、これまで以上にボランティアが一人一人のお話に丁寧に耳を傾けることができるように配慮する。



【オープンスペース「ふいりあ」】年間利用者 約4,080名

事務所の敷地内にオープンスペースを設けて近隣住民へのサービスや出会いの場、憩いの場として、さらには孤立防止の為に開放している。住民同士はもちろんだが、ボランティアとの交流を楽しみにしているようすが窺える。中にはボランティアが帰る際に男性の利用者が「さみしい」と何度も話される方がおり、普段から人との付き合いが少ないと思われる。さらに、男性向けの料理教室を開催したところ、みんなで一緒に食べることに慣れていない様子で、一人暮らしの孤食が浮き彫りになっている。引き続き孤立を防ぐためにも継続した「ふいりあ」の運営が必要である。

今年度は、今まで利用したことがない方も来訪するようになり一層の賑わいを見せている。しかし一方では新しいコミュニティに馴染めず足を運ぶものの、少しの時間だけを過ぎて帰られる方が出てきている。今後、イベントやコンサートなどの企画を通して利用者同士の交流を促していきたい。

一部の利用者の方々は「団子作り」や「ラーメンを作って食べよう」など自主的に企画をして楽しむようになったり、当法人のイベントで炊出しをしてくれたりと利用者が運営側のお手伝いを積極的にするようになり変化が見えている。住民たちの自主的なやる気を見守っていき、他の利用者も巻き込めるようにしていく。



【見守り支援活動】年間訪問件数 約750件

- ◇ 避難所時代からの継続した見守りや地区応援センターと連携した見守り
- ◇ 各関係機関との情報交換会へ参加
- ◇ 関係団体との共催で震災遺族を対象にした分かち合いの会を実施

見守り対象者への訪問を4年近く継続した結果、初めてご本人の心境を語る被災者もおり、蓄積された悲嘆を吐露する機会が増えてきている。住民との信頼関係があることで行政の「要支援者・要援護者リスト」に載っていない「要見守り者」の存在にも気づくことができ、今後の孤立防止に非常に有益であると考えている。

また、復興公営住宅への移行期にあたり、住民の格差が拡大しつつあり、見守り支援活動を慎重に且つ強化する必要性を感じ、人材の確保と見守り活動をするスタッフ間の情報交換を強化した。これにより連携がスムーズになり、さらに支援者側のケアにもなっている。

#### 【みんなのスペース「ぷらざ☆かだつて」】2014年10月オープン

個人や団体が自由に入出入りし、休憩や打合せ、コワーキングスペースとしても利用することができる場を提供。さらに、パソコンとWi-Fiも完備しておりインターネットを楽しむこともできる。住民同士もしくはボランティアと住民の交流の場、さらにNPO等団体の交流の場となることを目的として運営している。(特定非営利活動法人アットマークリアスNPOサポートセンターとの共同運営)

10月のオープン以来、827名の利用があり、主に仮設住宅やご自宅にパソコンやインターネット環境がない方が利用している。今後、二者のNPO団体が駐在していることでお互いの得意分野を生かして住民やNPO等団体のニーズに合わせた運営をしていく。



#### 【ボランティア派遣】※ 受益者数

釜石市社会福祉協議会（以下釜石市社協）や他団体、近隣住民などからの派遣要請に答えている。

- ◇ 福祉弁当の配達（釜石市社協・毎週金曜）※ 49回 314件
- ◇ 本の代読サービス ※ 41回
- ◇ 4月27日「唐丹地区郷土芸能祭」※ 約500名
- ◇ 7月24日「かみなかしまフェスティバル」※ 約1,000名
- ◇ 8月3日「釜石はまゆりトライアスロン」※ 約200名
- ◇ 8月9日「釜石よいさ」（実行委員会に参画）※ 約3,000名
- ◇ 8月11日「とうに夢あかり×LIGHT UP NIPPON」※ 約700名
- ◇ 12月6、7日「釜石の第九」※ 約1,100名
- ◇ その他仮設住宅の盆踊り、夏祭り、引越、草刈等





【イベント、セミナー等】※ 受益者数

- ◇ 5月13、20、27日、6月3、10日「パープルリボンサポーター養成講座」（共催：釜石市、NPO 法人母と子の虹の架け橋、NPO 法人カリタス釜石）※ 96名
- ◇ 8月4日「うみあそび」（ボランティア持込み企画）※ 約50名
- ◇ 8月7日フラダンス・保育園縁日（京都暁星高校持込み企画）※ 約100名
- ◇ 8月6日「夏祭り」（白百合学園持込み企画）※ 約50名
- ◇ 8月20日流しそうめん（聖マリア高校持込み企画）※ 約40名
- ◇ 7月20日他 釜石市社協の方や地元高校生の体験談及び東京の高校生との交流会 ※ 約40名
- ◇ 11月5、6、7日「つぼトントンセラピー講習会」（主催：認定NPO 法人JKSK 結結プロジェクト、協力：ハートサークル、NPO 法人カリタス釜石、後援：釜石市）※ 109名
- ◇ 11月23日「秋祭り」※ 約130名
- ◇ 12月24、25日「クリスマス会」（仮設住宅や釜石教会、近隣住民と支援者を招いての開催。田園調布雙葉高校持込み企画も開催）※ 約200名
- ◇ お正月期間 お茶っこサロンでの手芸作品を多目的ホールにて展示
- ◇ 1月8日、2月7、12日、3月13日「赤いエプロン栄養教室」（共催：味の素グループ）※ 38名
- ◇ 1月24日、25日「男女（みんな）の視点を取り入れ実践する地域防災力UP講座」（共催：釜石市・減災と男女共同参画研修推進センター、協力：国際協力 NGO オックスファム・ジャパン AmeriCares）※ 110名
- ◇ 1月31日「バザー」開催 ※ 20名
- ◇ 2月21日「このまちで楽しく生きるための講座」（進行：宝塚市社協 荒木澄美氏、講師：釜石市社協 菊池亮氏）（共催：釜石市 地域づくり推進課、共催：釜石市社協、協力：宝塚市社会福祉協議会）※ 30名
- ◇ 2月28日「ボランティア交流会」（共催：釜石市社協）※ 約30名
- ◇ 3月7日、3月8日 復興公営住宅部屋決め会場にてサロン開催 ※ 約120名
- ◇ 3月21日 「夜回り先生、いのちの授業～上智大学グリーンケア研究所 特別公開講座～」(講師：上智大学グリーンケア研究所 水谷修氏)（共催：釜石市教育委員会、釜石市社協、協力：上智大学グリーンケア研究所、岩手県立釜石高校）※ 約50名
- ◇ 3月21日 「春休みこども IT 体験（釜石、唐丹）」（共催：聖心女子学院ヨゼフ会・三陸みらいシネマ、協力：カリタス釜石）※ 12名
- ◇ 3月29日 「フリーマーケット」（主催：カリタス釜石）※ 約100名





**【多目的ホール及び厨房設備の貸し出し】**

2014年6月から当法人施設の貸し出しを開始し、3月末時点で107件2,571名の利用があった。会議や研修、イベント等幅広くご利用いただいている。住民からは会議する場がなかなか見つからないため、貸し出しをしてくれて大変有り難いと好評である。

■ボランティアの受け入れ

事業を実施する為にボランティアの受け入れをしており、団体独自の活動の他、社会福祉協議会ボランティアセンターや他団体へのボランティア派遣も行っている。ボランティアは表のように減少傾向にあり、これまでの活動を見直し、さらにボランティアの交通費補助も使いやすいように考慮する。

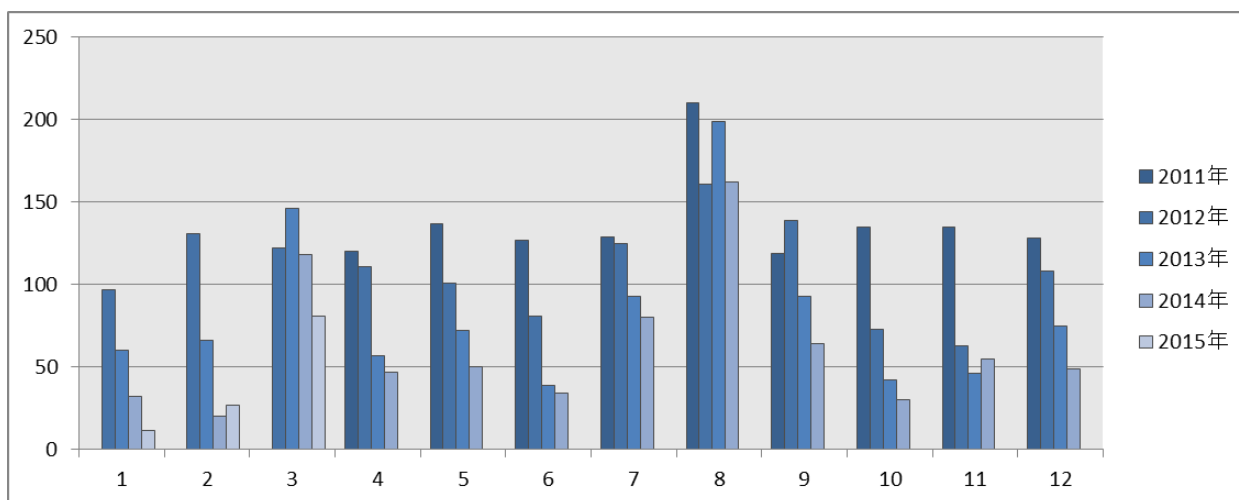
ボランティア受入数

(単位:人)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
女性	2011年				45	56	73	65	113	55	79	84	70	
	2012年	55	92	73	63	64	54	82	107	93	41	39	65	
	2013年	29	45	71	28	47	23	52	149	48	30	25	51	
	2014年	25	13	68	24	26	21	54	112	32	13	30	27	
	2015年	6	15	39										
男性	2011年				75	81	54	64	97	64	56	51	58	
	2012年	42	39	49	48	37	27	43	54	46	32	24	43	
	2013年	31	21	75	29	25	16	41	50	45	12	21	24	
	2014年	7	7	50	23	24	13	26	50	32	17	25	22	
	2015年	5	12	42										
計	2011年				120	137	127	129	210	119	135	135	128	1240
	2012年	97	131	122	111	101	81	125	161	139	73	63	108	1312
	2013年	60	66	146	57	72	39	93	199	93	42	46	75	988
	2014年	32	20	118	47	50	34	80	162	64	30	55	49	741
	2015年	11	27	81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	119
													4,400	

(※1)参加者名簿から抽出

(※2)到着日を基準日とする



## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者の 人数	受益対象者 の範囲及び 人数
被災地復興 支援事業	サロン活動、見守り支 援活動、他団体へのボ ランティア派遣、イベ ント・セミナー開催、 フリースペースの運 営、多目的ホール・厨 房設備の貸出等	平成26年4月 1日～平成27 年3月31日	仮設住宅団 地及びみな し仮設住宅 団地(16ヶ 所)、指定さ れた場所	スタッフ とボラン ティア延 べ約4,60 0(名)	釜石市仮設住 宅団地及びみ なし仮設団地 住民、その他釜 石市住民 延べ約26,000 (名) ※この他イベ ントについて 人数が数えら れないものも ある為、実際は さらに受益者 がいます。

### (2) その他の事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者の人 数
バザー等物 品販売事業	「さんりくわかめっ！」とTシャツの 販売	平成26年9 月10日～平 成27年3月 31日	カリタス釜石 (大只越町 2-4-4)	スタッフと ボランティ ア約30(名)